

橘小学校
「学力向上実行プラン」

- 基礎・基本の徹底を図り、自らめあてを設定し、進んで学ぶ授業の実践
- 深い学びをめざす、互いに伝え合い、考えて、つなげる授業の実践

学力向上推進員 野村 絵美 → 宇野 佐和子	委員 校長 上原 小代子 教頭 佐々木啓介 教務主任・特別支援教育コーディネーター 桑村美香 研修主任 野村 絵美→宇野 佐和子
------------------------------	--

校長

上原 小代子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

授業研究会や研修会の実施、教師自身の振り返りアンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能がおおむね身に付いており、与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多い。 ●語彙力が十分でなく、初読や文章を読み取る力、要点をまとめて書く力に課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けている。 ・身に付けた知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・語彙力を高め、日常生活で自分の考えや思いを分かりやすく話したり書いたりできる。	・宿題の出し方の工夫、小テストやプリント、タブレットのドリル活用で、基礎的・基本的な事項の習熟を図る。 ・既習事項を用いて課題を解決する場面を増やす。 ・音読や暗唱、朝活での視写や読書、新聞を読む活動を継続し、語彙を増やしたり文章の書き方を身に付けたりさせる。	・学習場面において意図的に同音異義語等を話題にしたり、短文づくりを取り入れたりして児童の語彙を増やす。 ・新聞記事や学習ガイドを活用し、初見の文章を読むことに慣れさせる。	・どの学年も、小テストや宿題の出し方を工夫することができた。継続的な取り組みにより、基礎的・基本的な事項の習熟を図ることができた。 ・朝の活動で全校的に視写や読書に取り組む、語彙を増やすことができています。視写では丁寧に速く書く力がついてきた。 ・新聞や学習の感想文、新聞づくりを通して、まとめる力や語彙力が向上した。	・言葉の数は増えたが、それを活用し、文章の中で生かす向上までは生かしていない。今後も、音読や作文の時間、タブレット・新聞の活用などで、組織的に取り組みたい。 ・授業中のタブレットの活用場面が増えつつあるが、より効果的なものを考えていきたい。 ・あわスタ等、新聞に関わる機会を増やす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○みんなの前で調べたことを伝えたり、話し合ったりする活動に意欲をもち始めた児童が増え、ペアやグループの話合いでは、自分の考えを発言できるようになってきた。 ●自分の考えを分かりやすく表現したり、友達の考えを受けて自分の考えを言ったりすることが苦手である。	・話し手の意図をとらえながら聴くことができる。 ・様々な場面で、自分の考えを書いたり話したりして表現することができる。 ・他者と意見を交流しながら、自分や全体の考えを深めたり広げたりできる。	・ペアトークやグループ学習を効果的に取り入れ、互いの考えを聴き合い、交流・共有できるような場面、時間を確保する。 ・ホワイトボードやICTを活用した発表や話合い活動を積極的に取り入れる。 ・友達の考えを受けて自分の考えを表現したり、考えた理由を表現したりできるような発問や指示の精選をし、児童の考えが深まるようにする。	・グループで課題を設定して話し合ったり、見出したことをほかの人に分かるように伝え合ったりする場面を増やす。理由や考え方を図などを示しながら説明する活動を取り入れる。 ・話し合いが深まる発問等が不十分に感じた。	・ホワイトボードを使った話合いやタブレットを活用したプレゼンなどで、相手意識をもった伝え方などの表現力が向上した。 ・ペア学習や発問の工夫で話合いの活性化を図った。 ・少人数を生かし個別の支援を充実させることができた。 ・NHK for school やデジタル教科書の活用が児童の興味関心や理解を深めた。	・児童にとって分かりやすい話合いのモデルを提示する。聴く力を向上させ、相手の意図をくみ取りながら話を聴けるようにする。 ・話し合いの際の意見をまとめたり、分類したりする時、タブレットを活用して授業を取り入れる。 ・より子どもの考えを深められる発問や指示の研修に努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては素直に取り組むことができる児童が多い。 ●学習に対する取り組みが受動的で、自分のめあてを見つけたり自己決定したりすることに課題がある。家庭学習に関しては、二極化が進んでいる。	・課題解決を通して分かる楽しさやできる楽しさを体感し、自分なりの充実感や達成感を味わっている。 ・自分の目標をもって家庭学習や家庭読書に取り組むことができる。	・児童が一時間の見通しがもてるようなめあての設定や振り返りの記述、振り返りの共有を学年に応じて工夫することで、達成感を味わわせ、さらに進んで学ぼうとする意欲を高める。 ・家庭学習の手引きや自主勉強ノートのおすすめメニューの配付、ノートの常設展示をし、児童が自己の課題に応じて主体的に学習に取り組めるようなヒントを提示する。 ・図書館サポーターと連携し、学校図書、学級文庫の内容の充実をしながら、利用の活性化を図る。	・自主勉強の取り組みせ方と評価を工夫する。 ・「週末読書」の活性化のため、委員会による校内放送を入れる。	・体験的な学習を取り入れることで主体的な学習になった。「めあて」の設定は教師主導になっていることが多い。 ・「家庭学習の手引き」「自主勉強のおすすめメニュー」を自主勉強に貼ることで、バリエーション豊かで主体的な自主勉強ができた。	・毎時間のめあての明確化と学習の流れを示し、どの児童にも見通しをもたせる。振り返りの時間を確保し、児童の充実感や達成感につながるよう学校全体として組織的に取り組む。 ・もっと進んで学ぼうとする意欲が持てるよう自主学習の内容の充実を図る。 ・「週末読書」を生かし、読書への意欲を高める。

令和5年度 学力向上ロードマップ

